

## ◇ 国 語

国 5-1～国 5-18 まで 18 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

カントは『純粹理性批判』で「認識が対象に従うのではなく、対象が認識に従う」と述べている。つまり、対象を見て認識するというよりは、それ以前の認識の枠組みにあるものとして対象をとらえる、ということだ。認識の枠組みは概念を形成することによって生まれるが、この概念の形成能力をカントは「悟性」と名付けた。「悟性」によって、人間は世界をカオス（混沌）<sup>こんとん</sup>としてではなく、秩序あるものとして認識できるというのだ。

しかし「悟性」が強く働くと、あるいは既成の秩序を教えられると、カオスをカオスとして受け入れることができなくなる、とも言えるだろう。光の強い星も弱い星も、等級付けすることなくあるがままに受け入れ、大きな物語にトウエイしないで、星空そのものを見つめ続けることで美に感動する、ということが難しくなるのだ。

(中略)

『リスクと生きる、死者と生きる』(石戸諭／亜紀書房)という本がある。これは、ジャーナリストである著者が東日本大震災を経験した被災地の人たちの肉声を拾い上げたものだ。人々の経験を大きな物語に埋め込むことなく、政治的イデオロギーに転嫁することもなく、それぞれの人の固有の声を伝えている。ジャーナリストが書いた本の中には、取材したネタをもともと伝えようとしていた物語の強化材料にしてしまうものもあるが、著者はそれを **ア** に拒否する。あくまでも個人として個人に接することで、結論をいそぐことなく、肉声そのものを丁寧に伝えようとしている。大きな主語を振りかざすのではなく、小さな主語の物語を積み重ねていくのだ。大きな主語で語れば確かに理解されやすいし、共感も得やすい。あるいは特定の人のヒサンな経験をセンサーショナルに取り上げて **イ** する方が、社会運動につながるやすい。しかし、それは人をわかった気にさせるだけで思考停止に導くことになりがちだ。マスメディアでしばしばその手法を見かけるが、カテゴリーに分類し大きな主語で物語ろうとするときに、こぼれ落ちてしまう小さな物語にこそ、普遍的な人の営みが反映されるのだ。

同書には、心の底からぼつりぼつりと、あるいはしばしば **ウ** を切ったように語られる肉声のそれぞれに、生き残つ

た人間の喪失感が様々な形で映し出されている。それは被害の大小で価値評価することはできない。被害が比較的小さかったからこそ、自分の苦しみなど口に出して言うことはできない、という苦しみを抱え込んでいる人もいる。体験は多様でありながらも、大きな喪失のあとに自分たちは生きているのだ、という共通点において、震災経験の普遍性が映し出されている。断片的なものを断片的なままに、丁寧に拾い上げていくことが、普遍性につながりうるのだ。初めから最大公約数的なものを目指しては真の普遍性に到達することはできない。先に書いた「生き残った人間」には、被災地にいなかったぼくたちも含まれる。歴史的時代区分から見ると、震災があったその時代に生きているのだから。大きな震災を経験した時代にぼくたちはどう生きているのか、をこの本は問いかけていると言えるだろう。

第2章「死者と対話する人たち」では、震災で亡くなった、あるいは行方不明になった肉親、親友などの喪失を感情的に受け入れがたい人たちの言葉が伝えられている。被災地では「幽霊を見た」という話がヒンパンに聞かれる。そして、そういう人の言葉を周囲はそのまま受け入れている。そのことについて著者はこう述べている。

『幽霊』現象をめぐる言葉に込められているのは、津波による突然の死を受け入れられない心を、そっと理解しようとする気持ちなのだと思つた。あるいは、幽霊であっても会いたいという声にならない人々の気持ちのあらわれともいえる。

死者へ敬意を払う人たちは、死者を思い続け、幽霊でもいいから会いたいと願う人の願いを受け入れる。東日本大震災で起こつた膨大な『あいまいな死』の意味は、このような態度でしか近づくことができないのではないか

何年たつても成長することのない子どもの写真をいつもポケットに入れていた人が、ようやくその死を受け入れ、彼・彼女はもう近くにはいないのだと認識し、それでも共に生きていると思つてしまふ、あるいは、思おうとする、まさに、その時に、幽霊は（星の王子さまのように）星になるのかもしれない。

ぼくたちは、目に見える星であれ、見えない星であれ、今存在している星であれ、すでに存在していない星であれ、宇宙の中でそれらと同居して生きている。ひととき輝く星を結び付けて物語を紡ぎだす「悟性」も人間として重要なものだが、大きな物語の一部としてカテゴライズしてしまうことなく、一つ一つの星を個々のものとしてそれぞれの美しさに感動する心、目に見えない星

にまで思いをはせる想像力を大切にしたいと思う。そして光の弱い星たちの間に、新たな線を見出し、あらたな形を想像し、新たな物語を紡ぎだす創造力も持ちたいと思う。言うまでもなく、ここでいう「星」は「人」に置き換えて読むことが可能だ。

『星の王子さま』の中で狐は大切なことを王子さまに教える。

「心で見なきやものはちやんと見えないんだよ。いちばんたいせつなことは目には見えないんだ」

この世を去った人の姿は目に見えないが、生き残った人たちの生に働きかけ続ける存在として、人々の胸の中に残り続けるのだ。さらに話を展開する。星⇨スターは輝かしい人を表す比喻として使われる。スターは空にあるものだ。人は、天を見上げて星を探す、あるいは上昇してスターになろうとする。だが、実は上を見上げているばかりでは見えないスターもあるだろう。中島みゆきに「地上の星」という歌がある。NHK「プロジェクトX——挑戦者たち」の主題歌なので聴いたことがある人も多いだろう。

歌詞はやや難解だが、その中にこういう一節がある。

〔地上にある星を誰も覚えていない 人は空ばかり見てる〕

「名立たるものを追って 輝くものを追って 人は氷ばかり掴む」

ぼくなりの超訳を試みる。

「星は、あなたのすぐそばにあり、輝いているのかもしれないが、あなたは見ようとしめない。人は、輝くスターになろうと、上ばかり見あげているが、空回りするばかりだ。(もしかしたら、その場で目の前のことに向き合えば、目の前の人に真摯に向き合えば、輝くことができるかもしれないに……)」

災害によって変わり果てた土地、それでもその上に立ってそれぞれの生を続けていく人たちは「地上の星」なのだ。カテゴライズされた概念としての「ヒサイシャ」など現実のどこにも存在しない。視線をコクウに向けて大きな物語を夢想してしまうと、個々の存在の仕方を見失ってしまう。人はそれぞれの喜び、悲しみを抱えながら、それぞれの在り方で生きている、そんな当たり前前のことをぼくたちは実感できなくなってしまうがちだ。

これは、社会事業家にも言えることだろう。大きな理想を描きながらも、歩みの遅さに時に焦り苛立ちながらも、目の前の小さ

な現実を一つずつ拾い上げていくという実践によってのみ、社会は（ほんの少しだが）変わっていく。たかが一歩、されど一歩だ。『「なんとかする」子どもの貧困』（湯浅誠／角川新書）にはそのような実践が紹介されている。著者がいう、「一ミリでも進める子どもの貧困対策」を実践している人たちは、いわば「地上の星」だ。高い理想を追い求めるあまり足元を見失ってしまうのではなく、地に足をつけて地道に一ミリでも前に進めるべく行動し続けている。エミリー・ディキンソンはこう言った。「傷ついた一羽の小鳥を救うことができたならば、私は無駄に生きたことにはならないだろう」

これは、社会事業家に限った話ではない。ぼくたちが、生活の中で道に落ちているゴミを拾うか、見て見ぬふりをするか、といったレベルのことにも通じる話だろう。理想や夢を語る人は多いが、足下のゴミを拾う人は少ない。「プロジェクトX」などを見て共感させられ、一過性の感動に涙するよりも、ゴミを一つでも拾う方が生きている実感に近づくのではないかとさえ思う。

被災であれ、貧困であれ、あるいは社会的成功であれ、テーマをカテゴライズして大きな主語で語ろうとするよりも、重要な断片的なことを一つずつ丁寧に拾い上げ、小さな物語を紡いでいくことだとジカイ<sup>F</sup>の念をこめて思う。そこに新たな物語が生まれる可能性があるのだから。

（西きょうじ『さよなら自己責任 生きづらさの処方箋』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A トウ|エイ

- ① 意気トウ|ゴウする
- ③ トウ|メイなガラス
- ⑤ クントウ|を受けた恩師

- ② ザツトウ|にまぎれる
- ④ トウ|カクを現す

1

B ヒ|サン

- ① 豪雪によるサン|ガイ
- ③ 孟母サン|センの教え
- ⑤ 大企業のサン|カに入る

- ② シン|サンをなめる
- ④ 一家リ|サンの悲劇

2

C ヒン|パン

- ① カイ|ヒンを散歩する
- ③ セイ|ヒンに甘んずる
- ⑤ ヒン|カイの頭痛に悩む

- ② ヒン|コウ方正な人
- ④ ヒン|キヤクをもてなす

3

D コ|クウ

- ① コ|クウの思想家
- ③ 人をコ|ケにする
- ⑤ 呼びかけにコ|オウする

- ② 味方をコ|ブする
- ④ カギカツ|コをつける

4

E ジ|カイ

- ① 田畑をカイ|コンする
- ③ 家屋がトウ|カイする
- ⑤ ホン|カイを遂げる

- ② コウ|カイ先に立たず
- ④ カイ|リツを守る

5

問二 空欄 ア・イ・ウ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

- ① 楽観的
- ② 権威的
- ③ 意識的
- ④ 政治的
- ⑤ 断片的

6

イ

- ① 一般化
- ② 断片化
- ③ 細分化
- ④ 合理化
- ⑤ 例外化

7

ウ

- ① 席
- ② 関
- ③ 咳
- ④ 堰
- ⑤ 籍

8

問三 傍線部 (a) 「人」とあるが、この字を含む四字熟語のうち意味が間違っているものを、次の①～④の中から一つ選べ。

9

- ① 衆人環視 …… 多くの人が取り囲んで見ていること
- ② 月下氷人 …… 世俗を離れて自然に親しむこと
- ③ 人事不省 …… 意識不明や昏睡状態になること
- ④ 人海戦術 …… 多人数で物事に対処すること

問四 傍線部（b）「天」とあるが、この字を含む四字熟語のうち意味が間違っているものを、次の①～④の中から一つ選べ。

10

- ① 意気衝天 ……意気込みや元気が非常に盛んなこと
- ② 天下御免 ……世間的に公然と認められていること
- ③ 天衣無縫 ……勝手に無遠慮な言動をとること
- ④ 有頂天外 ……このうえもなく大喜びすること

問五 傍線部（二）「対象が認識に従う」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

11

- ① 目に見えたものに対して自分がどのようなイメージを抱いたかを認識し、その結果を記憶すること。
- ② 目に見えたものの外観的特徴にとらわれず、その本質を考えていく中で既知の概念を刷新すること。
- ③ 目に見えたものの姿があるがままにとらえ、そこに存在する様々な美しさにおのずと感動すること。
- ④ 目に見えたものを既に知っているものの枠組みにあてはめ、それが何なのかを瞬時に判断すること。



問六 傍線部(二)「人々の経験を大きな物語に埋め込む」とはどのようなことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

12

- ① 人々が語った体験談をなるべく多く拾い上げ、後世に残る壮大なスケールの記録をまとめること。
- ② 人々が語った体験談を素材としつつ、それらに大がかりな脚色を施して長編小説を創作すること。
- ③ 人々が語った体験談の独自性を無視し、被災者全般がこうだというふうに変型化して伝えること。
- ④ 人々が語った体験談を過去の被災者の体験談と比較し、その結果を大々的に世に発表すること。

問七 傍線部(三)「あいまいな死」という表現が用いられているのはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

13

- ① 震災で生き残った者は、すでに自分自身も「死」を迎えたかのように感じてしまう時が多々あるから。
- ② 震災で生き残った者は、行方不明者が戻らないことや亡くなった者の「死」をなかなか受け入れられないから。
- ③ 震災で亡くなった者は、「死者」の世界へ行くことができず、幽霊として「この世」に留まり続ける運命だから。
- ④ 震災で亡くなった者は、生き残った者に「死者」だと認められないまま、その存在を忘れられてしまうから。

問八 傍線部(四)「地上にある星」を筆者は何の比喩ととらえているか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

14

- ① 目の前の現実と向き合い懸命に生きようとする人々
- ② 過酷な運命に翻弄される人々を支えてきた「希望」
- ③ 人々の努力で復興しつつある東日本大震災の被災地
- ④ 空を見上げる人々が普段忘れかけている大切な思い出

問九 本文の内容と合致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

15

- ① 『「なんとかする」子どもの貧困』における実業家の実践例にもある通り、理想や夢を達成するためには綿密に計画を立て、すばやく実行していくことが大切である。
- ② 『リスクと生きる、死者と生きる』の執筆姿勢からもわかるように、個々の小さな事象を丁寧に拾い上げ、注意深く価値判断を行うことが普遍性にたどり着くための道である。
- ③ 「プロジェクトX」という番組でも伝えられている通り、一過性の感動に涙するよりも日常生活の中で小さな行動を起こす方が生きている実感に近づくことができる。
- ④ 『星の王子さま』の中で狐が目に見えないものの大切さを説いたように、この世を去った死者たちもまた、今を生きる人の心を支え続けていく重要な存在である。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

一六五二年、ロンドンの一隅に一軒のコーヒー・ハウスが誕生した。粗末な作りであった。しかし、その粗末な空間が巨大な未来を孕んでいたという点で、比較できるのはかのベツレヘムの馬小屋（注）ぐらいなものである。

ロンドンに最初のコーヒー・ハウスが誕生した経緯は比較的詳しく伝えられている。レヴァントを舞台に活躍していた商人ダニエル・エドワーズがトルコ西部のスマルナから帰国する際、シチリア出身のパスカ・ロゼを召使いとして連れ帰った。ロゼは主人のために毎朝コーヒーを入れていたが、このシンギな習慣は多くの友人の好奇心を刺激するところとなり、エドワーズは彼らの好奇心を満たしながら欲談するのに丸半日をつぶす日が続いた。この時間を食う遊びに終止符を打つために、彼はロゼにコーヒーを出す店を開かせたというのである。ロゼの宣伝文句にはこうある。

"The virtue of coffee-drink first publicly made and sold in England by Pasqua Rosee."

（本邦初、公に入れて売られるパスカ・ロゼのコーヒー・ドリンクの効能）

ロゼには先駆者の受難が待ち受けていた。新たな商売（ガタキ）仇が繁盛するのを憂えた近所の酒場の主人たちが、お上に店の閉鎖を陳情したのである。彼らは主たる論拠として、ロゼが公民権を持っていないことを挙げていた。市の参事会員で、やはりかつてレヴァント商人であったホッジスという人物が、自分の御者ポーマン某をロゼの共同経営者につけ、事の解決を図った。のちにロゼが「不埒な所業」を犯したかど（詳細不明）でロンドンを去り、ポーマンの個人所有となる。彼は六〇〇〇ペンスをかけて店を改装したという。ロンドンを去らなければならなかったロゼは、この後ヨーロッパの各都市でコーヒー文化を定着させるために活躍し、しかしいったん定着すれば、忘れ去られる異国の民の原型であった。ア、ロンドンのコーヒー・ハウスはたちまちのうちに、数を増す。一六八三年には三〇〇〇、一七一四年には約八〇〇〇に達した。爆発的な数値である。コーヒー・ハウス文化の隆盛の原因はどこにあるのか。

ロゼのコーヒー・ハウスの宣伝文句には、問題解決の鍵となる言葉が記されている。「公に（publicly）」という言葉である。ここでいう「公に」とは何のことなのか。スチュアート朝の宮廷にコーヒー・ドリンクなる飲み物を献上するという意味でもなければ、庶民の飲むコーヒーをお上が公費で面倒を見てくれるという意味でもない。ロンドンには新種の公的世界ができ上がり

つつあった。市民的公共性の世界、市民社会である。ロゼ、というよりはおそらくエドワーズは、この新種の公的世界のまった  
だ中に、コーヒー・ハウスを投げ入れたのである。

古典古代の時代には、私的領域と公的領域は判然と区別されていた。内にはかまど——かまどの女神ヴェスタの鎮座する——  
—を中心とする家（オイコス）という生産領域（オイコノミア）と、外には都市国家の公的・政治的領域（ポリス）とである。  
しかし家の生産領域の肥大化は、本来の私的領域を越えた経済活動（エコノミー）を繰り広げることによって、家の共同体とも  
公共領域とも異なった人間の結合（ソキエース）を作り出した。近代市民の社会（ソサイアテイ）である。そこでは旧来の公私  
の区別が判然としないのである。無論、今日ではこの区分は様々な政治的・制度的・公共的設備の拡充によって、公は私から判然と  
区別できるような仕組みに一応はなっている。ところが一七世紀中葉には、これら近代市民社会の諸制度は存在していなかった。  
旧来の公私の関係を溶かし、新たな近代市民社会の公私の関係を創造していくかまどの役目を果たすが、コーヒー・ハウスに  
他ならなかった。

大英帝国は七つの海をオランダと競う商業資本主義国である。商人たちはインドの彼方の香料列島、西インド諸島、南北アメ  
リカ大陸等との遠隔地交易に乗り出し、<sup>（注二）</sup>重商主義の時代を担っていた。商業活動は世界各地の商品価格の違いを前提とする。商  
人は世界各地のもろもろの情報に通じていなければならない。しかし情報を得ようにも、一七世紀中葉、イギリスには王の政府  
から出される新聞しかない。その情報は役に立たない。ホットな情報の詰まった新聞が欲しい。新聞を作ろう。しかし作るにも  
作る場所がない。コーヒー・ハウスでやろう。

新情報を得るにはもうひとつ、手紙がある。しかしロクな郵便制度がない。一六七八年には国の郵便制度ができたが、配達  
実にはいい加減だ。もつと信頼できる郵便制度が欲しい。一六八〇年、ロバート・マーレイはいわゆる一ペニー郵便制度を作る。  
これは私的な郵便制度で、コーヒー・ハウスにイキョとして、手紙や新聞の発送や配達を組織したものである。コーヒー・ハウス  
に袋が掛けてあり、手紙を出したい人はその袋に入れる。しかるべき時に集められ、配達される仕組みである。国の方でも一六  
八三年、この方式を取り入れ、特定郵便局ならぬ特定コーヒー・ハウスを決めた。

（中略）

商人は世界各地の価格水準の違いは分かるものの、違いを勝手に作り出すわけにはいかない。産業資本と異なって、労働者を

直接搾取するわけでもなく、絶対君主のように、政治的権力を行使して生産を強いるわけでもない。その武器と言えば唯一、金である。その金を工面するのに株を売買したい。しかし株式取引所がない。コーヒー・ハウスを使おう。一六九〇年頃になって株式取引所、ロイヤル・エクスチェンジができたが、それでも株式取引のすべてをまかなうに足る空間はなかった。カイワイのコーヒー・ハウスが不足がちの空間を提供する。株取引で有名なジョン・コーヒー・ハウスでは一六九七年、専門の証券仲買人を雇い入れ、顧客の相談に応じ、助言を与える便さえ図っている。ヴァージニア・アンド・バルチックのように船舶株取引が中心のコーヒー・ハウスもあった。

海外活動は危険がともなう。保険が必要だ。しかしこれもない。どこかで始めなければならぬ。コーヒー・ハウス。正確かつ迅速な情報と遠隔地交易にまつわる事故の補償とは時代の要請であった。もともとタワー通りで、船乗りや旅行者相手のコーヒー・ハウスを営んでいたエドワード・ロイドは一六八八年頃、店をロンバード通りに移した後、顧客サービスの一環として『ロイズ・ニュース』を刊行した（一六九六年）。これは保険を希望している船舶をリスト・アップしたものであった。この時代、保険は個人の保険業者が引き受けていたためにリスクが大きく、それだけ一層正確な情報が必要とされていたのである。ロイズの『英国および外国の船舶一覽』は大きな反響を呼び、後にロイズが信頼できる正確なニュースを売り物に世界最大の保険会社となるインズエを築き上げる。

(中略)

要するに一七世紀の後半、無い無い尽くしのイギリスは、これら無いものを次から次へ作り出していく他はなかった。それがみな、コーヒー・ハウスという多目的ルームを使用することになったのである。しかもロンドンには世界交易の中心である。大英帝国の船舶は東インドへ、西インド諸島へと文字通り七つの海を駆け廻っている。ところで母国で世界貿易にかかわっている人々はどうしたらよいのであろう。本社のデスクに向かってファックスを待っていればよいという時代ではない。だいたい事務所がまた十分に存在していないのである。どこにいるのかとなれば、コーヒー・ハウスしかない。一杯のコーヒーで何時間でもねばれるとなれば、なまじテナント料金を払って事務所を構えるよりも安上がりでもある。

イ、<sup>E</sup> 本人の所在するコーヒー・ハウスがどこであるのかがみな知られていけばよい。ここにはすべてが揃っている。最新情報をマンサイ<sup>E</sup>した定期刊行物、郵便、株式仲買人、各界の情報通。ロンドンのトップ・エリートはコーヒー・ハウスに集まって当然であった。

(白井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』による)

(注一) ベツレヘムの馬小屋

イエス・キリストが生まれたとされる場所

(注二) 重商主義

貿易により資本を蓄積し国を豊かにしようという経済思想

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A シンキ

- ①キ|バツな衣装だ
- ③イ|ベントをキ|カクする
- ⑤キ|カイ体操を見学する

②キ|コウ文を書く

④多額のキ|フをする

16

B イキョ

- ①イ|ジュウする
- ③政界にイ|ヘンが起きる
- ⑤イ|ジを張る必要はない

②ユウイ|ギな仕事だ

④伝言をイ|ライする

17

C カイワイ

- ①医師のケンカ|イを重視する
- ③周辺をケイカ|イする
- ⑤体力のゲンカ|イを感じる

②カ|イチュウ電灯を準備する

④カ|イキ日食を観察する

18

D イシズエ

- ①空襲を避けてソカ|イする
- ③ソ|ボクな味をたのしむ
- ⑤敵の動きをソ|シする

②ソ|ボは長野に住んでいる

④キノ|知識を固める

19

E マンサイ

- ①写真をケイサ|イする
- ③腕の長さをサイ|スンする
- ⑤サイ|シンの注意を払う

②布を丁寧にサイ|ダンする

④交渉をサイ|カイする

20

問二 空欄  ・  に入る最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- ① 残念ながら
- ② 例えるならば
- ③ この他にも
- ④ 比較してみると
- ⑤ それはともあれ

- ① まるで
- ② 要は
- ③ もしくは
- ④ よもや
- ⑤ 更に

問三 傍線部 (a) ・ (b) ・ (c) の意味として最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 陳情した

- ① 本人の助けになるような意見を横から述べた
- ② 本人のために言いにくいことをあえて述べた
- ③ 公的機関に実情を述べて、善処を求めた
- ④ 自分の意見や考えなどを相手に伝えた
- ⑤ 根拠も無く無責任な噂うわさを言い立てた



(b) しかるべき時

① ふさわしい時

② 差し障りのある時

③ 夕方のある一時

④ 急ぎの用がある時

⑤ 出した人の都合の良い時

(c) なまじ

① 正直に

② 半端に

③ 無下に

④ 懸命に

⑤ 率直に

問四

傍線部(二)「パスカ・ロゼ」の説明として当てはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

① パスカ・ロゼはダニエル・エドワーズの召使いになった。

② パスカ・ロゼはロンドンに最初のコーヒー・ハウスを作った。

③ パスカ・ロゼはヨーロッパにおけるコーヒー・ハウスの先駆者だった。

④ パスカ・ロゼはコーヒー・ハウスで新聞を発行するアイデアを思いついた。

問五

傍線部(二)「古典古代の時代」の説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

① 古典古代の時代では、ポリスの延長としてソキエースが作り出された。

② 古典古代の時代では、ソサイアティを生むコーヒー文化が尊重された。

③ 古典古代の時代では、オイコノミアとポリスとは明確に区別された。

④ 古典古代の時代では、都市国家の公的・政治的領域は存在しなかった。

24

25

26

27

問六 傍線部(三)「時代の要請」とはどのようなことか。最も適切なものを次の①～④の中から一つ選べ。

28

- ①貿易が盛んになるにつれ、世界各地の食文化が紹介されると同時に、それらを提供する店舗が必要とされたこと。
- ②貿易が盛んになるにつれ、世界各地から大量の品物が届けられると同時に、それらを保管する場所が必要とされたこと。
- ③貿易が盛んになるにつれ、世界各地の情報を素速く正確に知ると同時に、万が一の場合の保険が必要とされたこと。
- ④貿易が盛んになるにつれ、世界各地から商人達が集まってくると同時に、多言語に対応できる人材が必要とされたこと。

問七 傍線部(四)「多目的ルーム」としてコーヒー・ハウスが果たした役割に当てはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

29

- ①コーヒー・ハウスは、手紙などの郵便物を集め、配達する制度の拠点としての役割を果たした。
- ②コーヒー・ハウスは、世界中の情報を詰めこんだ新聞を発行する場としての役割を果たした。
- ③コーヒー・ハウスは、株の売り買いを行うために必要な株の取引場としての役割を果たした。
- ④コーヒー・ハウスは、製茶業を営む商人が無料で利用できるオフィスとしての役割を果たした。

問八 本文の内容と一致するものはどれか。次の①～④の中から最も適切なものを一つ選べ。

- ①ヨーロッパ各都市にコーヒー・ハウス文化を定着させたのはエドワード・ロイドであった。
- ②コーヒー・ハウスは、貿易に関わる商人達が必要とする様々な役割を果たす場所であった。
- ③コーヒー・ハウスで過ごすことは個人の楽しみの一部であり、私的領域に位置づけられた。
- ④一六世紀半ばのイギリスでは、世界各地のさまざまな情報を提供する新聞が存在していた。